

令和4年度第1回 高知市口腔保健検討会議事録

高知市保健所 2階大会議室

R4.10.14 18:30~19:30

1 開会

司会：健康増進課課長補佐

2 会長・副会長の選出

会長：高知市歯科医師会 田岡 太郎 委員

副会長：高知市立小中義務教育特別支援学校長会（高知市立一宮小学校長）松岡 マミ 委員

3 議事

①令和3年度事業報告、令和4年度事業計画・取組状況について

事務局より説明

【田岡会長】

新型コロナウイルス感染症の影響で、中止になった事業等もあったが、フッ化物洗口支援件数が増えていたり、高知学園短期大学学生による健康教育も実施できていた。また、児童クラブでの健康講座も行われたということだった。

災害時の口腔ケアについてもチラシを作成して啓発を実施しているということだった。

資料10ページの医歯薬連携推進事業は、令和2、3年度と中止になっていたが、令和4年度は実施している。まずは歯科医師会 沼田委員から、この事業の取組状況について報告をお願いしたい。

【沼田委員】

今年度は、実施しており、協議会の第1回目を開催した。

県のパンフレットにある、第三期高知県歯と口の健康づくり基本計画の裏ページの3番にある医科歯科連携推進のところにも書いてある糖尿病重度化予防をテーマに、話し合いを進めていっている。研修会や啓発のポスターの作成等考えており、活用しながら医歯薬で連携を深めていけたらよいと考えている。

②口腔保健支援センターの取組について

- ・フッ化物洗口支援について
- ・糖尿病重度化予防の取組について

事務局より説明

【田岡会長】

まず、フッ化物洗口について、中学1年生の永久歯のむし歯本数はだんだん全国平均に近づいてきている。コロナの影響もあるのか、むし歯のあるものの割合は小学校中学年、高学年は増えているとのことだった。フッ化物洗口の実施施設は微増しているが、圏域別に見ると高知市の実施率は低い状況だった。園や学校での実施施設数を増やしていくためにどういう取組を行っていったらよいか、ご意見をいただきたい。

【片岡委員】

根気強く丁寧に事業を実施されていて、フッ化物洗口実施施設数も徐々に増えていると感じた。まだ開始してあまり年数が経っていないと思うが、ある程度年数が経った時に、フッ化物洗口実施校と未実施校で、変化や違いが出てくるのか、出てきたのかを教えてください。県の方で、そういった効果が出れば、やる気が出てくるという話を聞いたので、調査の予定があるかどうか教えてほしい。

【健康増進課】

フッ化物洗口を小学校1年生から取組み、継続して6年間行った児童が多くなっている学校では、むし歯保有者率が下がってきているが、6年間続けて実施した学校は、まだ少ないため、未実施校と比較できるところまでは至っていない。

2校ほど長く続けている小学校の、1年生から6年生まで永久歯のむし歯が増えていないという結果や、6年生のむし歯が高知市の平均と比較して少ないという結果を、フッ化物洗口意向調査時に各小学校へ配布したり、以前は校長会等でも説明している。

また、保育園の年中から実施している園では、小学校入学時点で永久歯のむし歯が0本という園が増えてきているため、保育園でやっている校区の小学校へ継続して実施できるような働きかけを行っている。

【田岡会長】

水田委員、保育園でフッ化物洗口を実施しているが、実際にやってみて実情はどうか。

【水田委員】

横浜保育園は令和3年度からフッ化物洗口を開始した。

はじめは、どういう取組みか分からず不安もあったが、丁寧に指導に来てもらい、今は慣れて実施できている。フッ化物洗口を始めるまでは、昼食後に歯みがきを実施していた。歯みがきだけ実施するのと、フッ化物洗口を実施するのとでは、差がどれくらい出てくるのか、これから先結果を見ていきたいと思っている。

毎年、高知学園短期大学歯科衛生学科の学生さんに保育園指導に来てもらっているが、ここ2年間は、コロナの影響で実際の歯みがき指導ができておらず、あいうべ体操や顎模型を使っての歯みがき指導をしてもらっている。

3年以上前では、実際学生さんが一人一人、子どもの口の中にハブラシを入れての歯みがき指導もあり、とても喜んでいた。また前のように実際の歯みがき指導を受けられたらいいなと思っている。

【田岡会長】

松岡委員，小学校は実施施設数が少ないが，実施が広がるために何かいい案はないか。

【松岡委員】

この3月末まで、同じ校区の一宮中学校で勤務していたため、小学校のフッ化物洗口は、自分がこの4月に小学校に赴任して、初めて見た。

一宮小学校は、早い時期から始めていて、先ほど説明があった効果が出ている学校の1つになっている。

養護教諭から資料をもらっているが、むし歯予防には成果が見えているという状況である。しかし、日頃からの歯みがきもおろそかにしてはいけないという結果も出ている。

歯垢が多い子、歯肉炎になっている子も多くいて、フッ化物洗口だけでは歯肉炎予防には効果がないため、きちんと歯みがきをして、フッ化物洗口を行っていくことが望ましいと聞いている。

フッ化物洗口を検討していくためには、フッ素はどんな味がするものなのか、学校で取組むにあたって1日の中でどれくらいの時間をフッ化物洗口にかけているのか、実施すると子どもたちが騒がしくなるのではないだろうか、などの心配があるのかもしれないので、具体的な取組方法や、実施している学校の声、成果、継続することに意味があるのだということを、機会があるたびに、講習会とか、いろいろなところで伝えていくことが必要だと思う。自分も校長会の方で、話をしていきたいと考えている。

【田岡会長】

沼田委員，学校歯科医の中でもいろいろ考え方があるとは思いますが，広めていくためのいい方法はないか。

【沼田委員】

私は児童数の多い小学校の学校歯科医をしているが、フッ化物洗口については、養護教諭の先生と話がついても、学校としてはなかなか話が進まなかったりするため、個人的には進めていくのはなかなか難しいと感じている。

コロナ前には、医歯薬の関係者、PTA、校長先生、教頭先生などが参加する協議会があったが、ここ2年は書面開催になっているため、学校に対して、学校歯科医が発言する場がなかなか持てないという状況に置かれている。今後、学校歯科医が連携のために取組んでいける突破口があるのかどうかを考えていきたい。

先ほど、松岡委員の方から、校長会でお話していただけたという話があったが、学校歯

科医の立場からもその会でアプローチができるのかどうか？また、以前、田岡会長がフッ化物洗口について説明に行ったことがあると聞いているので、具体的にどのような会だったかを教えてほしい。

【松岡委員】

校長会への参加は大丈夫である。高知市歯科医師会として参加してもらおうとよい。

【田岡会長】

私は、何年か前に学校医、校長先生と養護教諭の先生方が集まる会で、フッ化物洗口について話をしてほしいという機会をいただき、話をしてきた経験がある。

大きい会で、何百人か参加されていて、説明をした後、食事会の時間に、何人かの先生方に、興味があると声をかけてもらったが、実際その会をきっかけにフッ化物洗口の実施設が増えた成果はなかった。

これは私の意見で、高知市歯科医師会の意見というわけではないが、口腔保健支援センターが始まって、8年ぐらいになると思うが、フッ化物洗口の話は、この口腔保健検討会でも当初から議題に上がっていて、園は、だいぶ増えてきたが、小学校はあまり大幅には増えておらず、正直なところ最初と変わっていないのではないかと感じている。

地道に行政の方々、学校の先生方、皆さんが頑張っているのはよく分かるが、そろそろ何かもう一歩踏み込んだ施策を考なければいけない時期に来ているのではと感じている。

【沼田委員】

校長会等で決まる内容については、PTAの方々に話を通したり意見をもらったりすることがあるのか。

【松岡委員】

それは別の機会になっている。

【田岡会長】

続いて、糖尿病ハイリスクの方を歯科受診につなげていくための取組について、今年度から県の計画の中で「糖尿病患者の歯科受診した者の割合」の目標値が設定されたが、歯科医師会も医歯薬連携を通じて検討していく課題でもあるが、みなさまのご意見をお願いしたい。

高崎委員、内科や循環器等の医療機関での歯科受診のすすめについて、何かいい方法や、ツールの活用等でご意見はないか。

【高崎委員】

特定健診で、糖尿病の疑いがある方について、医療のレセプトがない方をピックアップして医療の受診を勧めているところであるが、内科の受診ですら難しい状況である。

その中で診療所に来てくれた方には歯科受診を勧めているが、そこまでもたどり着けていない状況なので、行政と連携し、まずは糖尿病の受診率を上げるよう取組んでいきたいと考えている。

【田岡会長】

植田委員、薬局で生活習慣病の方に、歯科受診を勧めてくれているという話を聞いたことがあるが、糖尿病ハイリスクの方に対しては何かいい啓発方法があるか。

【植田委員】

糖尿病重度化予防と歯科受診については、個人的には、生活習慣病の患者さんに歯科医院でのクリーニングを勧めることはあるが、薬剤師会としては特別に取組んではない。

令和2年度、3年度と高知県と薬剤師会の協働事業で、糖尿病治療薬の実態調査をアンケート形式で行った。大体、95%ほどの薬局から回収が得られ、かなり信頼性の高いデータとなっているため、県内の糖尿病で受診をされている方の割合はある程度分かるが、その受診率を上げていくことが難しい。

受診に対して関心がない方にどうやって病院受診、歯科受診をしてもらうかはこれからの課題と思っている。

【田岡会長】

沼田委員、歯科医院側も当然受け入れ体制というのを今後強化していかないといけないと思うが、歯科医師会としては今後どのようなことを考えているか。

【沼田委員】

患者さんの意見を聞いてみても、歯周病は何となく全身に悪いということは知っているがそこから新しい情報にアップデートされていないという状況があると思う。

歯科医院側も、情報がずっと止まったままになっているのではないかなと感じている。

今回の医歯薬連携事業で、今までも何年も事業は実施してきたが、さらにアップデートをできるための方法を考えていかなければいけない。医歯薬連携の中でもアンケート等で確認し、きちんと周知されているかなども確認していくことが、非常に大事だと思う。

今年度も含めて、事業の中で、連携をどう図ったらいいか、どういう形で、情報を共有したらいいかということを検討し、また歯科医師会の中でも情報共有をしていこうと考えている。

【田岡会長】

大野委員，大学の学生はかかりつけ歯科医を持っているものか。学生は糖尿病にはなっていないと思うが，若い世代からかかりつけ歯科医を持っていることがつながっていくと思う。

【大野委員】

歯科衛生士を目指している学生はかかりつけ歯科医をもっている。他の学科はちょっと分からない。

【田岡会長】

片岡委員，歯科衛生士会として、何か今後取り組みそうなことはないか。

【片岡委員】

高校を卒業すると、自分で定期的に歯医者さんに行き検診するという機会が少なくなっている。法律でもその義務はなく、自由意思になるが、歯周病になっている人は、30代で、7割を超している。

今年、県の委託を受けて、歯周病について説明できる歯科衛生士を、アドバイザーとして27名養成した。意識の高い方ではなく、事業所で働き盛りのなかなか歯医者さんに行く機会の少ない方に、こちらから出向いて行って、事業所健診の機会に話をさせてもらう取組を実施している。話をする時には、高知学園短期大学の協力も全面的にいただき作成したリーフレットで話をしている。

事業所では、全身との関わりやかかりつけ歯科医を持っているかなどのアンケートを取っている。結果はまだ出ていないが、私が参加した印象では、やっぱり全身との関わりは、何となく知っているけれどという方が多いのと、また、全く知らないという方も予想した以上に多かった。

知らないという方には説明し、セルフケアと歯医者さんでのプロフェッショナルケアの両方が大事という話をしている。高知市内は、定期的にかかりつけ歯科医を受診している方が多いと聞いているが、郡部では、かかりつけ歯科医が1割もいなかった。それが現状ではないかと思っている。

今年度は事業所に15か所行く予定なので、歯医者さんに定期的に行き、自分に合った歯の磨き方の指導や、歯間清掃用具も使ってもらい、歯石も取ってもらい、今後継続していきたいと思っている。

【田岡会長】

上原委員，協会けんぽで、保健指導時の受診勧奨の取組についてや、レセプトから糖尿病患者のうち歯科受診していない人をピックアップして受診勧奨することは可能か？

【上原委員】

できないことはないと思うが、その手前の糖尿病の治療をしていない人が多いため、まずは糖尿病患者を医療につなげるところが最優先になっている。

【田岡会長】

糖尿病と診断されても、病院に受診していない現状で、そこから患者を歯科受診につなげていくということは、至難の業であるということが分かった。

患者だけでなく、医師も、薬剤師も歯科医師も、まだまだ知らないことがたくさんあると思うので、今後、周知をし、情報共有していくことが大事ではないかと思ったところだった。

閉 会

事務局より連絡事項

- ・災害時の口腔ケアについてチラシ説明
- ・第2回目の検討会は2月に実施予定